

神根中だより

～歌声と笑顔あふれる学校～

令和3年 5月号

学校教育目標
主体的に学ぶ、
心豊かでたくましい生徒



川口市立神根中学校

〒333-0823 埼玉県川口市石神1515-1
電話 (048) 296-7025

私の特技「皿回し」28年の歴史

校長 松村 一人

みなさんは、「特技」をお持ちでしょうか？中学生の頃、私には「特技」と呼べるものは何もありませんでした。その「特技」について、苦い思い出の一つ。中学校2年生の時に自分の事を書くプリントを渡されました。そこには特技を書く欄が…。「特になし」と書けば良かったのですが、中学生の私は「何か特技を書いて提出しなければいけない」と思い込んでいました。その時、少し前に買ってあった「腹話術」の本を思い出し、特技の欄に「腹話術（練習中）」と書いて、先生に提出しました。腹話術ができるようになったら、人気者になれると思って買った本です。プリント提出後、腹話術をマスターしようと思い、本を読み始めました。しかし、その本に書いてあった内容は、私には難しすぎて、すぐに挫折しました。その後、いつ先生に「松村君、腹話術やってみて。」と声をかけられるかとドキドキしていましたが、何事もなく、過去の恥ずかしい話の一つで済みました。



さて、そんな私が「皿回し」と出会ったのは28年ほど前。ある他県の中学校の先生のお話と実演でした。その先生は、文部科学省委嘱の生徒指導の研究発表会のあいさつで生徒指導主任として、皿回しをその話と共に実演されたというのです。それはこんな話です。『皿回しは、人間関係まったく同じです。回る皿が生徒、棒が先生とすれば、先生がいくらあせって生徒をよくしようとしても、生徒は動かないわけです。相手に合わせて相手のいいところを見つけながら、少しずつ少しずつ働きかけていく以外にはないわけです。』と。皿回しのコツは、最初はゆっくり回すことです。最初、お皿は止まっているわけですから、速く棒を回すと、摩擦がほとんど働かずに滑ってしまうのです。摩擦がなるべく働くように、棒がお皿の底に引っかかる感じで、「ゆっくり」→「だんだん速く」回すのがコツなのです。お皿が回ったら、棒を手のひら

に乗せるように手の握りを開くと、今度は棒がお皿に回されているように皿と棒が一体となって回ります。これも人間関係に似ています。回していると思っている先生が本当は生徒に回されている？！。しかも美しくバランスがとれていてきれいなのです。これは、親子の人間関係にもつながります。

そして、コツを理解した私は、少しの練習で皿回しを自分の特技にしました。それ以降、授業や学年集会、全校集会、保護者会などで、皿回しを実演するようになりました。神根中でも早速、入学式後の保護者へのお話の中で披露させていただきました。

なお、川口市立科学館の展示室にも、皿回し用の皿と棒が置いてあります。それは科学館が新しく開館する直前の4月に異動した私が置いたものです。すると大人気コーナーに！一つでも特技があると自分への自信がアップするものですね。